癒やされたい外国人急増　跳ね上がる「うさぎの島」人気

広島県を代表する観光地・宮島(廿日市市)。昨年の観光客数は430万人と、昨夏の西日本豪雨災害の影響で過去最高だった一昨年の456万人から減ったが、11月以降は毎月、過去最高を更新中。このままいけば、今年は記録を軽く塗りかえそうな勢いである。

もちろん、外国人観光客も増え続けている。昨年は35.5万人が来島。前年を3万人上回り、5年連続で過去最高となった。

日本を代表する京都市だと外国人観光客は740万人を超えるため、宮島の数字はさほどではないように思えるが、さにあらず。京都は人口140万人の政令指定都市だが、宮島は1,500人の「過疎の島」。住民一人当たりでみると、京都の5倍余りに対して宮島は230倍以上の外国人観光客を受け入れている計算になり、もてなす労力がいかに大変か数字を通して見えてくる。

広島県にはもっと「外国人受け」している島がある。竹原市の沖合3キロにある大久野島だ。年配の方には、旧陸軍の毒ガス製造工場があったため「毒ガスの島」としての記憶が強いが、若い人には「ウサギの島」として知られている。

そもそもこの島には戦後、ウサギはいなかったが、半世紀前に地元のある小学校で飼われていたウサギが放され、野生化して繁殖したと言われている。現在約900羽。5、6年前から海外のニュースサイトが動画付きで紹介したり、島を訪れた外国人が動画サイトに投稿したりしたことで、国際的に「ウサギの島」として知れ渡った。

観光客は年間36万人。外国人観光客は1.8万人を数える。行政上は無人島の扱いだが、休暇村に20人の従業員がおり、一人当たりの外国人観光客は900倍に上る。

瀬戸内海にはほかにも、「ネコの島」の真鍋島(岡山県)や、「アートの島」の直島(香川県)など、外国人観光客をひきつけてやまない離島がたくさんある。各島とも過疎化が進行し、住民サービスの維持など行政上の課題も山積しているが、それぞれ島の魅力に一段と磨きをかけていて、どっこい元気だ。

中国新聞社　執行役員地域ビジネス局長　宮田俊範